

## 2 型糖尿病網膜症における網膜循環動態

長岡 泰司\*

これまで私は「眼循環」という観点から糖尿病網膜症予防戦略を考えてきた。レーザードップラー眼底計を用いることにより、網膜循環を非侵襲的かつ定量的に測定することが可能であり、この方法を用いて 2 型糖尿病患者における眼循環動態を評価した。網膜細動脈の血流量は網膜症発症前からすでに網膜血流は低下することを明らかにした (Nagaoka, IOVS, 2010)。さらに網膜血流と全身因子との関連について詳しく調べると、血清クレアチニンと LDL は網膜血流低下の危険因子であること、網膜血流低値群では HbA1c が有意に高値であることから、腎機能、脂質異常、さらには血糖管理不良が 2 型糖尿病患者の網膜循環動態に影響を及ぼす可能性が示され

た。一方、摘出網膜血管を用いた基礎研究で低下した網膜血流を改善しうる薬剤の探索を行い、高脂血症治療薬シンバスタチン (Nagaoka, IOVS, 2007) およびフェノフィブラート (Omae, IOVS, 2012)、インスリン抵抗改善剤ピオグリタゾン (Omae, IOVS, 2011)、さらには赤ワイン含有ポリフェノールであるレスベラトロール (Nagaoka, IOVS, 2008) などが網膜血管拡張作用を有することを明らかにした。今後は、糖尿病内科との連携をさらに深め、これら薬剤を用いた介入試験に発展させ、低下した網膜血流を改善させることで網膜症の発症・進展を予防できるかを検討したい。

\* Aaaaa Aaaaa : 旭川医大・眼科